

No. 193

H15年7月1日

— 発行 —

〒869-1217

熊本県菊池郡

大津町森 54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100

困惑

施設長 松田 健

- ① 「自閉症の子どもが部屋でピョンピョンとジャンプするので困っています。」 答えが、下にクッションを敷き、響かないようにして下さい。
- ② 「2階から物を投げるので、困っています。」 答えが、叱ると強化することになるので、外へ投げるのではなく、2階から家の中に投げるようにさせて下さい。
- ③ 「二十歳になってもガラガラを手放さないので困っています。」 答えが、本人が大切にしている宝物なので認めてほしいが、もし、取り上げる場合は、代用となるものを与えて下さい。
- ④ 「我慢することができずに困っています。」 答えが、我慢は教えにくい。今すべきことを教え、次にすべきことを促すことによつて我慢は自然と身につく。
- ⑤ 「食べるのがとても早く心配している。」 「偏食がひどく困っていること」

る。「答えが、無理に直さない方がいい。食事は、楽しくあるべきだ。」

こういう答えを聞くと本当に困ってしまいます。現在の自閉症療

育の主流派であると思われる方が言われると更に困ってしまいます。

悲劇的であるとしか言いようがありません。現場の方ならまだいいのですが学者や売文の徒、曲学阿世の徒と思われる方であると怒りにも似た感情が沸き起こります。

勿論、私も絶対正しいという意見・考えを持ち合わせていません。しかし、これが絶対正しいと言わない謙虚さは持ち合わせています。

①についてですが、実害のないものは目をつぶるという考えのよう

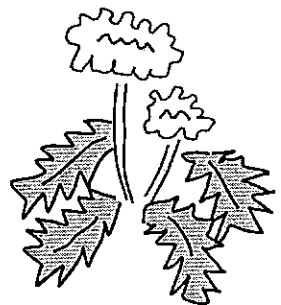
です。下手に本人を刺激しない方がいいという考えより、まず、してはいけないことを理由を添えて言ってみることが大事だと思

います。しつこく言うことで（止め

と意思をします。本気で止めさせようとするのか、そうした行為や類似した行為、または、常同行動やこだわりをどう考えるかにも因ります。

②は、命にかかわる問題です。豆腐や目薬を落とすならまだいいのですが（本当はよくありません。小さい物から大きな物へ、危険性の無い物からある物へ発展していくのが常です。）、テレビを落とす人にあたつたら犯罪行為です。「家の中にどうぞ。」という悠長なことを言っている場合ではないと思います。そもそも2階には住めないし、私なら二十四時間付き添ってでも投げさせないようにします。少なくともそれぐらいの問題として捉えます。

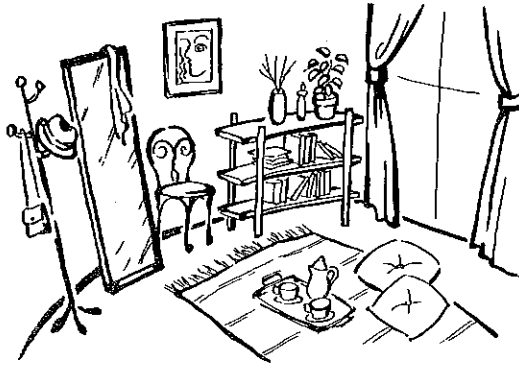
③は、私たちの施設にも三十過ぎている人で空き缶をパンツの中に後生大事に入れていた方がいました。おかしいことだと気づき、あるスタッフが中心となりチームを組んで二十四時間体制で二週間



付き添うことにより改善できました。反動があるのでとは危惧した人もいました。が何もありませんでした。むしろ、すつきりした顔をしていました。「おかしい」ことを本人にも説明し、スタッフが一人となることによつて解決することは多いと思います。一人でも宝物といった意識や可哀想といった気持ちがあると逆効果になると思います。

④は、その通りだと思います。作業の時は、作業を、掃除のときは掃除をすべきであり、的確に次の指示をだすことが必要です。終わったあと次の行動を指示・提示することによつて混乱する場面を作らないことは大事です。しかし、生活場面ではよつと待つてもらうことはたくさんあります。待つことができる人が我慢できる人であり、作業などを集中することによつて身につく場合もあります。が、全く別であったりもします。「手はひざの上」と言われて十秒待てるかどうか、また、そうしたことを言われたことがあるかどうかで違ってくると思います。我慢は教えられれると思いますし、とても必要なことだと思います。

⑤について。大きな声を出している人や体を大きく揺らしている人と一緒に食事をしたいとは思いません。三十秒ぐらいで詰め込んで食べる人はあと十年しか生きられません。拒食の人もしかりです。極端な偏食の人に対し無理やり食べさせようとして余計に食べなくなつては駄目ですが食べるようになれば命を救つたことになります。楽しい食事の時間にするために援助者が身を削つて努力するか何もせず楽をするかは考え方の違いだと思います。



すーゆるに班

さんサン工房の日常と出来事

三気の里より徒歩10分位の所にある作業所（職場）のメンバーは、朝出勤に間に合うように朝食を食べ、居室廊下掃除を大忙しで済ませ用意周到で出勤します。それもだんだん早くなり、今では作業所でスタッフを待ち草取りをしながら時間調整をする余裕も…

出勤簿の押印、ラジオ体操を行い朝礼。その後10時より仕事に入り、もくもくと電装部品組み立て作業を行ないます。手順もスムーズになり、かなりの量を出すことが出来るようになりました。企業からは期待していますの言葉と信頼も頂いているようです。

作業所で仕事をすると、地域の方々とよく顔を合わせます。作業所のメンバーも顔見知りとなり、挨拶は気軽に交わしているようです。作業所も近所では小さな噂になっているのか、時には地域の方が突然見学させて下さいと来所されたり、「がんばるとるごたるけん、食べなっせ」と、採れたてのとうもろこしや芋をふかせて持って来てくださり、暖かく見守って頂き感謝しつつ嬉しい気持ちで一杯です。

仕事は午後4時までノルマに追われながらやりますが、真面目にやって当たり前、これからも仕事人としてプライドを持ち頑張る事でしょう。

田之上

2班・初レクリエーション

今年度より新しい班体制となり、初のレクリエーションを6月10日に行ないました。利用者22名、スタッフ7名の計29名の大所帯です。新体制になり2ヶ月がすぎ、作業や日課を通して利用者それぞれの様子が分かりつつあるのですが、外出先での様子が今ひとつつかめない為、緊張したレクリエーションでもありました。しかし、日頃の成果を発揮し、集団での移動もスムーズに行なう事ができ、コンビニでお弁当やおやつを選び、ゆっくりと温泉に浸かり、疲れを癒してきました。歩くのが遅い人・待つ事が苦手な人・こだわりが多くスムーズに動けない人など、それぞれ個人のペースが有り、なかなか周囲に合わせて動く事が難しい人たちでした。しかし、4月の頃と比べると自分の事しか見えていなかったのが、周囲の様子に気付き、周囲にあわせて動こうとする姿が見られつつあります。日頃なかなか皆の成長を感じ取れなかったのですが、外出先で日頃の成果を見ることができ嬉しく思いました。

岩本

3 班・花壇に花が咲く日

雨が降ると紫陽花の葉の上では蛙の合唱が聞こえてくるようです。そんな風景も少なくなりましたが、梅雨入りした今日この頃いかがお過ごしでしょうか。

新体制になり3ヶ月が過ぎようとしています。最近、園外の整備や花壇には花が咲き、花壇周りは草がきれいに取られ整備されていた事を思い出しました。しかし手入れのいき届いていない今の姿は悲慘なものです。今までは園芸班が行なっていたのですが、新体制になりただの言い訳ですが、農耕、園芸とそれぞれにすることが増え、手が足りず、花壇は荒地になっていました。きれいに整備されているということは当たり前ではなく、以前の園芸班がしてくれていたからなのですが、今後は園芸班のプライドにかけ自分たちで（元園芸班のメンバーの期待を込めて）元の姿に戻していきたいと思っております。

今しばらく、3班の育てた花が花壇に咲くのを待っていて下さい。

上野

4 班・気持ちを伝える

蒸し暑い梅雨の季節となりましたが、紫陽花の花が癒しを与えてくれるような気がします。そんな中、4班メンバーのと〜っても楽しみにしている“宿レク”が間近となり、紫陽花同様、皆の心も花開いています。題して“電車の旅 in 鹿児島”！宿レクを楽しみにしている気持ちは全員一致ですが、表現の仕方は皆個性的。例えば、「～したい！」「～に行きたい！」など、感情を言葉で表現できる人・ニコニコ太陽のような表情で‘楽しい’という気持ちを表現できる人…などなど。“人に何かを伝える”手段をもっているということ、その手段を使って自己を表現できること、それって、とてもすばらしい力だと思いませんか？これから、もっともっと彼らのすばらしさを知りたい、引き出していきたいと思っている今日この頃です。

平山

1 班・雨の降る季節

梅雨に入り毎日、はっきりとしない天気が続いています。そんな雨にも負けず今日も1班メンバーは元気に作業へ向かっています。雨が降り、作業棟への移動をする時には傘をさして行きますが、傘をさす玄関口ではそれぞれのドラマが繰り広げられます。決まっていつも赤い傘を手にする人。雨にあたってしばらくしてから広げる人。傘の枝を首に挟み、クルクル回している人。傘から腕が濡れないように脇をギュット締めている人。傘を閉じたままで、開けない人などです。一人一人の個性が出ていますが、やはり基本はきちんと傘をさし、目的の場所に着いたら閉じることです。まだまだ、雨の降る季節は続きますが私は傘を上手に差す練習期間だと思っています。雨に濡れても頑張っで欲しいです。

出牛

通所部の新しい作業

4月に作業棟を移転、新しい環境でスタートして、3ヶ月が過ぎようとしています。現在、バイクのブレーキ部品の組み立てと芋のヘタ切りを作業として行っています。

この作業の中で、仲間達がスタッフの声かけにどれだけ反応して仕事ができるかと言う事に目を向けて取り組んでいます。ただ作業が出来ればいいのではなく、作業中のスタッフの声かけに注意を向けられるか、全員で手を休めてみたり、促された人だけが作業をしたり、また、スタッフに報告して部品を取りに行く等、人とのやり取りが出来るようになることも目的にして取り組んでいます。このようにして、取り組んできたやり取りが、生活場面の中でも人に報告してトイレに行ったり、状況を見て判断出来るようになったりと少しずつ身に付いてきている事を感じています。

これからも、色々な人とのやり取りを通して、人の中で生活する事の意味を伝えていきたいと思っております。

岩田

『違和感から常識へ』

伊豆野 良栄

毎年、この時期になると三気の里では「療育状況表」というものを作成します。これは、全利用者に対して個別の目標（長期目標・短期目標・小目標）を立て、担当（所属班）と利用者が目標に向かって一緒に取り組むものです。今までは、三気の里の中の「生活目標」が主であったため、職員自身も生活目標以外（例えば、余暇時間を楽しむとか、楽しく食事をする等々）には考えられなかったのだと思います。勿論、大切な目標であるし、今年度も同じような生活目標は沢山あります。しかし、今年はその意味合いがちよつと変わってきたのです。職員一人一人が利用者に対して、明確に「未来へ向かっての目標」を立てました。

に、今やるべきことが分かりやすくなり、スタッフ側も本当の意味で、目標に取り組んでいるような気がします。

しかし、なぜ「日常生活」が「将来の目標」だったのでしょうか？「生活」は日々施設の中で送っている「暮らし」な訳で、皆が共通理解をしていれば、わざわざ個別の目標に挙げなくともクリアーできる目標ではないかと考えました。

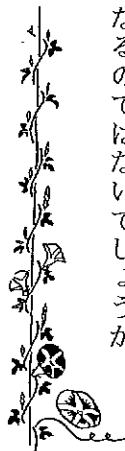
スタッフ会議で、みんなで統一したい事柄が続々と挙げられました。内容は、『スタッフがいらない事は利用者にもさせない。スタッフが行うことは利用者にも伝える。』という内容で、身なりを整える等のエチケットや生活の中のルール、マナー等、私たちが当たり前に行っている事です。ネーミングとして「当たり前暮らし」か「条」と命名し、現在取り組んでいます。今までは、「どうせ言ってもできないから」「面倒だから」「この人はいつもこんなだから」等の理由だったのだと思います。皆で決めた「当たり前暮らし」か「条」は、明確に園内の雰囲気を変えてきています。スリッパが揃えられるようになり、布団がは

み出さずにきちんと押入れの中に入っています。廊下を走る人がいなくなり、石鹸を使って手を洗うようになりました。声を掛ければ

始どの利用者はできます。できなくとも、ちよつと手を貸せば大抵分かってくれます。長年、お母さん達から教えてもらってきた賜物だと思っています。出来る事を出来ないようにしていたのは、スタッフ（把握の甘さ、意識の低さ）

であり、社会の流れから外れた（ある意味、閉ざされた空間）施設内の異質な雰囲気だったのだと思います。もっと怖いのが、人間3日も経てば慣れてしまうことです。慣れの恐ろしさほど怖いものはありません。このような色々な事柄の集合体が、施設内の「違和感」を作り出していたのだと感じます。利用者は素直です。毎日の習慣通りに外でも行動します。私たちも同じなのですが、日頃し慣れている事には「こちなさがあり、普段から習慣として身につけている行動は、ごく自然に外でも行えています。」

に、利用者にも年齢に応じた興味関心があると思います。洋服などの見た目だけではない、職員の対応についても然り…。将来の目標（未来）が、社会参加であるのなら（家庭も十分な社会ですし、買い物に行ったり、レストランに行く事も社会です）、施設空間の中においても「もしも、ここがデパート（外）だったら…」という意識が常に必要だと思えます。そういった施設内の意識が、「異空間（違和感）」を変えていく第一歩となるのではないのでしょうか。



メールアドレス紹介

三気の里／三気の家／自閉症・発達障害支援センターへのご意見、要望等ございましたらその他何でも結構ですのでぜひメールをお送り下さい。皆様の声をお待ちしております。

URL <http://www7.ocn.ne.jp/sanki>

Email

(里) sanki@siren.ocn.ne.jp

(家) non.kon.gen@titan.ocn.ne.jp

(支援) shien@basil.ocn.ne.jp

輝き大会 十八回

第10回 輝き大会 菊池・阿蘇プロック大会(知的障害者スポーツ大会) 大会スローガン

「生き生きふれあい輝くみらい」
去る、平成15年6月8日(日)に高森町民体育館にて毎年開催されている、スポーツ大会に参加しました。毎年、菊池・阿蘇地区のいろいろな競技場で行なわれていま

す。
輝き大会は、「社会は障害者をはじめ社会を構成している全ての人のニーズを大切にしたい」「すべての人のための社会でなければならぬ」という理念のもと、知的障害者がスポーツを通して、心身の発達と健康の維持増進を図り、自立への意欲を高揚するとともに、社会参加への希望と勇気を与える大会とする。」が開催の趣旨となっています。大会には菊池・阿蘇地域の18の施設の利用者の方が参加し、各福祉事務所など関連の事業所の方々も振つての参加でした。総勢1000人近い人が、個人競技・団体競技に楽しんで参加していました。三気の里も総勢40名の利用者の方が参加しました。自分

の競技の順番になると1番を狙って一生懸命走る人、参加することに意義があるといつて、楽しんでる人様々でした。毎年参加することで、利用者の方も慣れて、落ち着き払つたものでした。今年は保護者の方々の応援も多く、たくさんの方々の声援の中、皆怪我をする事もなく、参加できたことを嬉しく思います。応援有難うございました。来年も更なる応援よろしくお願ひします。



八木

輝き大会に我が三気の里からは、40名の利用者が参加し元氣一杯に頑張りました。会場内は、参加者が一杯で蒸し暑かつたのですが、自分の種目を楽しみながら頑張っていました。観客席からは、保護者の方々と一緒に応援する姿もあり、皆がひとつになり大会は、温かいものとなりました。

利用者全員が参加した「コーラ早飲み」や「パン食い競争」では、会場内も暑くお腹も減つていた事もあつてか、皆がとても早いスピードで走り、種目を楽しんでいました。コーラを飲むおいしそうな顔が印象的でした。最後には、毎年

恒例になりましたエアロビクスダンスで、身体を動かし汗を一杯かきました。私自身輝き大会が初めてで楽しかつたですし何よりも親子の触れ合う姿が印象的でした。輝き大会に参加した利用者の方々、一生懸命に頑張る姿、輝いてましたよ。暑い中本当にお疲れ様でした。

山部

た様に、これからも私は見守り続けたい。

帰りの車内で笑顔の息子と一方通行の喋りを続ける妻の幸せそうな横顔をのぞき本当に輝き大会に参加して良かったと思ひました。

甲斐 安夫

利用者感想

輝き大会は、とても楽しくて良かったです。私の出場した、ゴール(ボールを蹴つてサッカーゴールに入れて走る競技)が楽しかったです。観戦席では、沢山応援をしました。昼食の時の巫女舞は、初めて見るものでとても良かったです。競技場は滑りやすいと聞いていたが、こけた人もいなくて良かったです。職員リレーで、三気の里が1位になり盛り上がりました。また、参加したいです。 伊石

保護者感想



楽しみ半分、心配半分、イベントに弱い息子。何らかの障害を持つて参加している人々、自然と視線が柔らかくなるのを感じます。皆、一生懸命。しかし我息子は笛吹けど踊らず、しかし力二が柿の種が芽を出すのを信じて水をやっ

50m走で頑張つて走り1位になつて嬉しかったです。サッカーボールを蹴つてゴールに入れる競技(ゴール!)が楽しかったです。お父さん、お母さんが応援に来てくれて嬉しかったです。ありがとうございました。 宮本

7月の行事予定

月	火	水	木	金	土	日	備考
	1	2 山内さんの 誕生日(26) 4班宿泊レク	3	4 岩下さんの 誕生日(31)	5 村上さんの 誕生日(37)	6	宿泊レク リエーシ ョン(4班)
7 七夕祭り	8	9	10 剛さんの 誕生日(33)	11	12 家族会 亀崎さんの 誕生日(30)	13	7/2-3
14 光山さんの 誕生日(37)	15 功一さんの 誕生日(30)	16 荒川さんの 誕生日(26)	17 誕生会 岡崎さんの 誕生日(34)	18 杉本さんの 誕生日(24)	19	20	
21	22	23	24	25 夏祭り 佐々木さんの 誕生日(33)	26 帰宅バス 新一さんの 誕生日(32)	27	
28	29	30	31	山内さん、岩下さん、村上さん、剛さん、 亀崎さん、光山さん、功一さん、荒川さん、 岡崎さん、杉本さん、佐々木さん、新一さん 誕生日おめでとう◎ 12日家族会 17日誕 生会 25日夏祭り 26日帰宅バス			

実習・ボランティア通信

来る7月25日に三気の里にて
“夏祭り”が開催されます！利用
者の皆さんと楽しい一時を過ごし
たい方、又、準備のお手伝いをし
て下さる方がいらつしやいました
らお気軽に連絡して下さい。(高橋
両角が受け付けます！) 平山
(ボランティアありがとうございます)

*生け花

西村 栄子

*ピアノ演奏

井川マリ子

敬称略

後援会募集のご案内

三気の里では、後援会を募集し
ています。御入会頂いた方には、
毎月発行している機関紙「たんぼ
ぼ」をお送り致します。

振り込み先

口座番号

01970・8・14902

社会福祉法人 三気の会後援会

保護者会代表 魚谷 秀文 宛

住所

熊本県菊池郡大津町森54・2

一口 3千円

団体は、1万円より

後援会ありがとうございます

山下 広幸・二宮 秀樹

(株)ヨネカワ・木下 祐一

園田 正春・舞永 眞一

別府 卓

※ 敬称略



《6月出張・研修報告》

6月3日～4日

全国グループホーム研修会

(鹿児島)

研修者：松田施設長、石丸

6月9日～11日

中堅職員研修会(熊本)

研修者：宮原

6月9日～13日

実習(横浜/てらん広場)

出張者：佐藤

6月17日～20日

実習(千葉/袖ヶ浦

ひかりの学園)

出張者：平山

編集後記

機関紙「たんぼぼ」の内容改良
計画!!只今、内容について編集
者で再検討中です。更に広まる機
関紙を目指して頑張っていきます
のでご協力をお願いします。小野